

2026年度 創価大学 転学部転学科・転籍・編入学試験問題  
〈法学部 法律学科〉その1

学部・学科	受験番号	学生氏名
法学部 法律学科		

(注意事項)

1. この試験問題および解答用紙は、無解答の場合でも必ず提出してください。
2. すべての受験番号欄に、受験番号を必ず記入してください。
3. 試験時間は11:00～12:00になります。

以下の2問どちらにも解答してください。

問1 50点

法は、社会の秩序を維持し、社会共通の利益を志向し、かつ人々の幸福を高めることに資するものでなければならない。この前提において、従来から多くの支持を得てきた考え方に、「最大多数の最大幸福」を主張したベンサム（J・Bentham）に派生する功利主義の思想がある。我が国でも、「社会全体の利益」が法律の前提であるとされ、日本国憲法は、その第12条で、日本国民に対して、日本国憲法が国民に保障する自由や権利を濫用してはならず、常に公共の福祉のために利用する責任を負うことを要求している。そして、私たち一人ひとりが人権や私権を行使するに際して、民法は、その第1条で、公共の福祉に適合しなければならないこと、権利の行使や義務の履行を信義誠実に行わなければならないこと、権利の濫用は許されないことを明記している。

以上の説明を踏まえたうえで、「公共の福祉」「信義誠実」「権利濫用禁止」それぞれの意味と重要性について、あなたが最も関心ある具体例を示しつつ、概説してください。

問2 50点

現代の立憲民主主義国家において、選挙は、国民の意思を政治に反映させるための最も重要な仕組みである。しかし、選挙制度の設計は、「一票の価値の平等（法的平等）」という憲法上の要求と、「政治的安定」あるいは「多様な意見の反映」という政治的機能の追求との間で、常にジレンマ（二律背反）を抱えている。このジレンマについて、小選挙区制と比例代表制を比較しながら、法学と政治学の観点から論じなさい。



(次ページあり)



